

《専門科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	桐原 由美、倉澤 俊夫				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本科目は、幼稚園教諭免許を取得するにあたり不可欠となる教育実習である。2年次には責任実習を実施し、子どもの成長を支え、適当な環境を与えることのできる専門職として必要な理論と実践について学習する。また、社会人としてのマナーを身につけ、「育てたい保育者像」の具現化を目指す。

《テキスト》

武藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017 小櫃智子「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」わかば社 2017

《参考図書》

参考書・参考資料等 植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006

《授業の到達目標》

所定期間の実習において真摯に現場指導者及び幼児から学び取る姿勢を育むと共に、幼稚園教諭に求められる記録力、考察力、実践力を更に培い、社会性、協調性をもって愛情豊かに子どもを見つめることのできる専門性を獲得する。

《授業時間外学習》

実習指導用ファイルを用意し、授業で配布されたプリントを確認し、復習に活用する。  
自習日誌を記入、教材研究、指導案の作成等を行う。  
必要に応じて、手遊び、絵本の読み聞かせの準備を行う。

《成績評価の方法》

成績評価の方法  
実習日誌30% 実習先評価50% 提出物20%で教育実習を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出物は内容を確認し、講評などでフィードバックするほか、返却時にコメントをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	責任実習	約3週間の教育実習（責任実習）保育者の援助・意図・県境構成・子ども同士の関わり・保護者との協働・専門性・行事と保育・責任実習・保育計画と省察・適切な記録
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	伊東 一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義、目的、内容の理解  
 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成  
 実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《テキスト》

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社

《参考図書》

汐見稔幸「保育所保育指針ハンドブック2017年告示版」学研

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。

保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。  
 保育に対する自己の課題を説明することができる。

《授業時間外学習》

名札・自己紹介グッズの作成や絵本や・紙芝居、素話の練習など、保育実習にかかわる活動を自己学習の中で行う。  
 また、教材研究や指導案の作成を行う。

《成績評価の方法》

模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業時間内はもとより次授業においてフィードバックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習の振り返り 授業計画について	「保育実習指導」の授業の進め方の確認 「保育実習」におけるエピソードや学習内容についての振り返り
2	実習の意義	保育実習の意義とねらい・内容についての理解 実習施設についての理解と学習（ワークシート）
3	保育士の役割と生活	保育士の資質と役割についての理解 保育所の生活（デイリープログラムや保育所の特性）についての事例研究
4	保育の一日を知る	保育の現場における一日（映像視聴） 映像を通じた気づきと自己課題への置き換え（ディスカッション）
5	子ども理解	多様な子どものニーズや抱える課題についての理解 子どものもつ課題に対する事例研究（ディスカッション）
6	子育て支援	保育の現場における保護者支援についての理解 保護者支援の実践（グループワーク）
7	観察と記録	観察の視点と記録の方法についての学習 実習における観察と記録（グループワーク）
8	指導計画立案（部分実習）	部分実習の目的と内容についての確認 指導計画の立案（ワークシート）
9	指導計画立案（責任実習）	責任実習の目的と内容についての確認 指導計画の立案（ワークシート）
10	模擬保育（年長児）	年長児模擬保育実践（グループワーク・プレゼンテーション） 実践に対する見直し
11	模擬保育（年長児）	年長児模擬保育実践（グループワーク・プレゼンテーション） 実践に対する見直し
12	保育教材の研究	絵本・手遊び・紙芝居についての事例研究 題材の検討と制作
13	保育教材の研究	題材の制作 教材の使用と見直し（グループワーク）
14	実習の振り返り	実習における学びに関する討議（グループワーク） 実習の総括と自己評価
15	今後の課題	本授業の振り返りとワークシートの製本作業 卒業後の進路の展望と自己課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	古橋 真紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士は、保育所のみならず、児童福祉施設での保育士、障害者支援施設等における支援員としての活躍が求められている。本科目では「保育実習」に向けて、対人援助職としての保育士の基礎的知識・技術、施設保育士の業務内容や職業倫理、利用児者の個別支援計画、保護者支援・家庭支援についての基礎的事項、他職種との連携の基本について学ぶ。そして、対人援助職・社会福祉職としての自己課題を明確化する。

《授業の到達目標》

福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。  
 児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に、家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識、技術について論じることができる。  
 保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し、実践に適用できる。  
 専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60%、グループワークや授業における発言20%、実習書類・提出課題20%で評価する。  
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

守巧他「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、2014  
 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行、2018

《授業時間外学習》

社会福祉概論、教育心理学、乳児保育、児童家庭福祉、社会的養護、障害児保育I等、学習してきた多岐に渡る知識及び、保育実習指導I（施設）、保育実習I（施設）で体得した内容を復習した上で、授業に臨んでください。授業を通して実習の課題・目標を明確にもって実習に取り組んだ上で、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めていきましょう。

《課題に対するフィードバック等》

グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習の意義と目的、実習全体のプロセスを理解する。 予習：教科書、教科書 該当箇所 復習：授業配布プリント
2	実習施設の研究1	保育実習I（施設）を振り返りまとめ、発表資料を作成する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：各自発表資料作成・発表練習
3	実習施設の研究2	前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：発表内容の整理
4	実習課題の設定・実習日誌の書き方	保育実習（施設）の振り返りから保育実習での実習課題を明確化する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：実習における自己課題をまとめる
5	施設職員の職種と役割	施設において利用者・利用児を支援する専門職の職種と役割について学ぶ。 予習・復習：児童福祉分野の専門職の職種と役割についてまとめる
6	施設職員の援助技術	対人援助における利用児・者への受容的態度と共感的態度、ニーズを把握する意義とその方法について学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
7	福祉施設利用児・者の理解と権利擁護	「子どもの最善の利益」について学ぶとともに、具体的な場面での実習生の言動について考える。 予習：全国保育士会倫理綱領の復習 復習：授業配布プリント
8	責任実習指導案の立案	施設養護や障害児・者支援についての理解を深め、責任実習の指導案を作成する。 予習・復習：各実習施設の利用者を想定して、責任実習の指導案を作成
9	模擬実習	立案した指導案に沿って模擬責任実習を行い、準備物や環境設定・言葉がけを振り返ることを通して指導案を訂正する。 予習・復習：模擬保育の準備と指導案の訂正
10	実習関係書類の作成について	実習先施設や大学へ提出する書類の意義と作成方法について確認する。 予習：教科書の熟読 復習：実習書類作成
11	各種計画の立案	個別支援計画、自立支援計画の意義と目的を理解し、作成の仕方を学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
12	実習前試験	施設実習実習に関する知識・手続き等、準備事項の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る
13	実習に向けての最終確認	実習後の施設への提出物と提出・受取方法、大学への提出物、お礼状の書き方等を確認する。 予習：教科書 復習：授業配布プリント
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から、自己課題を明確化する。 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習施設の概要や機能・役割、施設保育士の業務内容とその役割、実習総括と自己評価のまとめと発表をする。予習：実習成果をまとめる 復習：既習事項を振り返る

《専門科目》

科目名	保育実習				
担当者氏名	伊東 一誉				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育実習」での学びを基礎とした保育所での実践を通し、以下のことについて学ぶ。

- 保育士としての資質・能力・技術を修得
- 実習経験の集大成としての責任実習の実施
- 家庭と地域の実態と子ども家庭福祉ニーズの理解
- 子育て支援のために必要とされる理解力・判断力の育成

《テキスト》

必要に応じて資料配布をする。

《参考図書》

汐見稔幸監修「保育所保育指針ハンドブック2017告示版」学研

《授業の到達目標》

保育にかかわる基本的な知識を自己の将来設計や課題と関連づけて説明することができる。

保育士としての責務を説明することができる。

コミュニケーション能力・創造的表現力・倫理的思考力・問題解決能力・保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。

《授業時間外学習》

絵本・紙芝居・素話・ピアノなど、保育実習にかかわる技能に関する反復練習を自己学習の中で行う。  
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《成績評価の方法》

実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60%以上を合格させる。

《課題に対するフィードバック等》

専門科目の単位修得状況、「保育実習指導」の評価により、校外実習への参加の是非を決定する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デイリープログラム	保育所の状況と実習園についての理解 保育の現場における一日の流れについての学習
2	保育技術の習得	乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） 生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
3	発達過程	乳幼児の発達過程についての学習 事例研究（ディスカッション）
4	乳幼児理解	乳幼児の発達過程をふまえた個人差についての理解 個人差についての対応方法の理解と検討（ディスカッション）
5	特別な配慮を要する子ども	特別な配慮を要する子どもについての学習 対応方法に関する理解と検討（ディスカッション）
6	多様な保育サービス	延長保育等多様な保育サービスについての理解 事例研究（体験学習）
7	指導計画立案（部分実習）	部分実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
8	指導計画立案（責任実習）	責任実習における指導計画立案 指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	家庭との連携	保護者とのコミュニケーション方法の理解 事例研究（ディスカッション）
10	地域社会との連携	地域社会との連携の理解 事例研究（ディスカッション）
11	乳幼児の最善の利益	乳幼児の最善の利益への配慮 事例研究（ディスカッション）
12	倫理観	保育士としての職業倫理の理解 事例研究（ディスカッション）
13	責任実習	立案した指導計画の見直し 指導計画に基づいた保育活動実践
14	実習の振り返り	実習経験の記録作成 実習経験から得られる気づきと改善点、総括
15	今後の課題	本授業における学習の振り返りとワークシートの製本作業 卒業後の進路の展望と自己課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習				
担当者氏名	古橋 真紀子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士は、保育所のみならず、児童福祉施設での保育士、障害者支援施設等における支援専門職としての活躍が求められている。本実習では保育実習1での学びを更に深めるため、施設実習を通して、対人援助技術の基礎を身に付けること、利用児者の個別支援計画を理解した上で実際の支援を行うこと、他職種・地域連携という視点から利用児者を様々な角度で支援することを学ぶ。

《授業の到達目標》

施設の役割と機能について具体的に説明することができる。  
個別支援計画から利用児者の個人差やニーズを把握し、個々に応じた支援を実践できる。家庭支援や他職種との連携について具体的方法を論じることができる。保育士としての自己課題を明確にし、対人援助職としての専門性を高める計画を立案することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50%、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

守巧他「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、2014  
「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会、2018

《授業時間外学習》

「保育実習指導」履修が必須となります。  
実習までに、これまでの学修を振り返るようにしてください。  
実習終了後は振り返りシートや自己評価票作成を行い、各自が実習を振り返り、自己の課題を明確にしてください。

《課題に対するフィードバック等》

実習先による中間評価や最終評価や、訪問担当教員による実習中におけるフィードバックを実施します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	児童福祉施設等における実習の実施
2	施設の役割と機能 一日の流れの理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割と機能 役割・機能の理解	実習での具体的な取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	利用児・者一人一人に応じた関わり	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術を高める
5	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行し改善を図る
6	利用児・者の心身の状態に応じた対応	国際生活機能分類（ICF）の考え方に基づいた利用児・者の理解を不断に試み、障害に対する合理的配慮および発達の側面からの支援についての専門性を高める
7	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解し、自らも環境構成に努める
8	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解・実践し、専門性を高める
9	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか考察を深める
10	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していく中で、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深め、日々の支援方法の改善に努める
11	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどういった役割・業務内容を担っているか、実践を通して理解し、対人援助職としての保育士について考察を深める
12	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職がどのような役割を担い、利用児・者のためにどのような連携が行われているかを可能な限り観察・共に実践し、連携についての理解を深める
13	利用児・者の家庭への支援についての理解	可能な限り、利用児・者の家庭の実態に触れ、児童家庭福祉、社会的擁護、障害児・者支援に対する理解を基に、家庭支援の知識・技術・判断力を養うよう努める
14	地域社会との連携についての理解	実習施設の地域活動や地域サービスに参加して、施設の地域における役割や機能、地域のニーズについて理解を深める
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての役割と職業倫理、自らの今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	子ども家庭福祉				
担当者氏名	佐野 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

少子化の進行や虐待、貧困など子どもを取り巻く問題は深刻化している。この講義では、子どもと家庭のウェルビーイングをめざす子ども家庭福祉とその根底にある子どもの人権について理解する。また、人権を支える制度、実施体系について学び、援助の基本を修得する。

《テキスト》

新保幸雄・小林 理編集：『新基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉』，中央法規，2019年。

《参考図書》

- ・厚生労働省：『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018年
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館，平成30年

《授業の到達目標》

子どもの人権と子ども家庭福祉の理念について説明できる。  
 子ども家庭福祉の法制度と実施体系について説明できる。  
 子ども家庭福祉の現代的課題を理解し、援助を行う際に必要な実践的知識を習得することができる。

《授業時間外学習》

予習では教科書の該当するページを熟読し、疑問点をまとめておく。復習では授業のまとめや課題作成、また、疑問点を調べておく、次の授業時に担当教員に質問をする。  
 子どもや家庭の福祉に関するニュースに関心を持ち、情報をファイルしておく。

《成績評価の方法》

レポート（30％）定期試験（70％）  
 総合して60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートなどの課題はコメントを記載し、翌週の授業内で返却する。また、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの人権と児童の最善の利益	子ども家庭福祉を学ぶ意義、人権とは何か、子どもの人権 予習：テキスト3講を熟読(1時間) 復習：子どもの人権についてまとめる(1時間)
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷	日本と海外の子ども家庭福祉の歴史と子どもの人権 予習：テキスト2講を熟読(1時間) 復習：日本と海外の歴史を比較する(1時間)
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	子ども家庭福祉の法制度、実施体制 予習：テキスト4講を熟読(1時間) 復習：妊娠～子育て支援まとめ(1時間)
4	少子化と子育て不安	少子化、子育て不安とは何か、子育て支援の在り方 予習：少子化について調べる(1時間) 復習：少子化と子育て支援のまとめ(1時間)
5	子ども虐待・DVとその予防	子ども虐待・DVとは何か、子ども虐待とDVの実情、グループ討議 予習：テキスト9講を熟読(1時間) 復習：子ども虐待の政策のまとめ(1時間)
6	子どもの貧困と家庭への対応	子どもの貧困とは何か、子どもの貧困に関する政策、制度 予習：テキスト10講を熟読(1時間) 復習：子どもの貧困に関する政策のまとめ(1時間)
7	少年非行等への対応	少年非行の定義と法律、社会的養護の現状と課題、グループ討議 予習：テキスト13講を熟読(1時間) 復習：社会的養護の課題のまとめ(1時間)
8	子どもの人権と現代的課題	子どもの人権と現代的課題(子育て不安・虐待・貧困・少年非行)について発表 予習：発表原稿の準備確認(1時間) 復習：本題についてレポート作成(1時間)
9	障がいのある子どもへの対応	障がいのある子どもと家庭を支えるしくみ、障がい児支援の背景 予習：テキスト12講を熟読(1時間) 復習：保育士の役割まとめ(1時間)
10	子ども家庭福祉の施設と専門職	児童福祉施設の種類、保育所の位置づけと保育士の専門性 予習：テキスト5講を熟読(1時間) 復習：保育士の専門職のまとめ(1時間)
11	少子高齢化と地域子育て支援	少子高齢化の実態、子ども子育て支援制度と地域子育て支援 予習：テキスト6講を熟読(1時間) 復習：地域子育て支援まとめ(1時間)
12	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成の意義、サービスの動向 予習：テキスト7講を熟読(1時間) 復習：母子保健のまとめ(1時間)
13	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズに対応する仕組み、支援者としての役割 予習：テキスト8講を熟読(1時間) 復習：多様な保育ニーズ、支援者のまとめ(1時間)
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	次世代育成支援に関係する制度の現状 予習：テキスト14講を熟読(1時間) 復習：子ども家庭福祉の課題のまとめ(1時間)
15	地域における連携・協働とネットワーク	支援ネットワークの必要性、子ども家庭福祉のこれから 予習：テキスト15講を熟読(1時間) 復習：支援ネットワークのまとめ(1時間)

《専門科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本来子どもは安全かつ安心のできる家庭環境で成長、発達すべきである。しかし、何らかの事情でその家庭環境を奪われた子ども、あるいはその家庭環境にとどまることが望ましくない子どもが存在する。こうした子どもを国が責任を持って保護し援助する体制が社会的養護である。この授業では、時代とともに変化する子どもを取り巻く社会的課題や制度、専門職と人材や援助技術についての知識を修得する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の意義と歴史の変遷を述べることができる。
- (2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明することができる。
- (3) 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。
- (4) 社会的養護の対象や形態、関連する専門職等について述べるができる。
- (5) 社会的養護の現状と課題について説明できる。

《成績評価の方法》

ワークシート評価(30%)、定期試験(70%)  
総合して60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ6  
相澤仁他編集「社会的養護」中央法規

《参考図書》

- (1) 小口尚子・福岡鮎美著「子どもによる子どものための子どもの権利条約」(小学館)
- (2) 福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典(第2版)」テコム2017

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストである本(教科書)の予習をし、専門用語や制度について学習しておくこと。
- (2) 社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識し、毎回のテーマについての疑問点、課題を整理しておく。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業内で、提出されたワークシートに対してフィードバックを行います。疑問点、質問は授業内及び授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護の基礎概念、理念や原理の理解 予習：教科書p2-12 復習：教科書該当箇所 ワークシート
2	社会的養護の歴史の変遷	欧米及び日本の社会的養護の歴史、子ども観の変遷を理解する 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所 ワークシート
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権擁護のとらえ方、具体的擁護、虐待の予防や対応の在り方への理解 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所 ワークシート
4	社会的養護の基本原則	家庭養護優先原則の根拠となる法律や条約、国内外の施策や動向を理解する 予習：教科書p38-48 復習：教科書該当箇所 ワークシート
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務	対人支援を行う支援者に求められる高い倫理観を理解する 予習：教科書p50-60 復習：教科書該当箇所 ワークシート
6	社会的養護の制度と法体系	「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規の理解 予習：教科書p62-72 復習：教科書該当箇所 ワークシート
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から施設、里親家庭に至るまでの過程を学び施設の概要課題を理解する 予習：教科書p74-84 復習：教科書該当箇所 ワークシート
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ソーシャルワークの基本的視点や考え方を確認し、その展開を理解する 予習：教科書p86-96 復習：教科書該当箇所 ワークシート
9	社会的養護の対象と支援のあり方	予防的支援、在宅措置、代替養育を学び、対象者のニーズを理解する 予習：教科書p98-108 復習：教科書該当箇所 ワークシート
10	家庭養護と施設養護	家庭養護(里親やファミリーホーム)と施設養護の現状と課題を理解する 予習：教科書p110-120 復習：教科書該当箇所 ワークシート
11	社会的養護にかかわる専門職	専門性や資格の種類、保育士とかかわる専門職、その他の職種を理解する 予習：教科書p122-132 復習：教科書該当箇所 ワークシート
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護体制の現状とその在り方、また存在意義について理解する 予習：教科書p134-144 復習：教科書該当箇所 ワークシート
13	施設等の運営管理の現状と課題	施設運営の内容と費用の仕組み、あり方について理解する 予習：教科書p146-156 復習：教科書該当箇所 ワークシート
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	施設入所児童等の虐待防止の経緯及び発生原因と課題の理解 予習：教科書p158-168 復習：教科書該当箇所 ワークシート
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	児童福祉施設の地域への貢献の必要性や今後の課題についての理解 予習：教科書p170-180 復習：教科書該当箇所 ワークシート

《専門科目》

科目名	子ども理解				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

子どもの生活や遊びの実態をディスカッション等を通じて理解を深め、それに即して子どもの発達や学びとその過程で生じるつまずきおよびその要因を把握するための原理や方法について演習を通じて学ぶ。

《テキスト》

次良丸睦子 他(編著) 2021 現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床 福村出版

《参考図書》

佐藤公治 2019 発達と育ちの心理学 萌文書林  
請川滋大 2020 子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法 萌文書林

《授業の到達目標》

子どもの発達および行動のアセスメントを実施できる。  
子どものつまずきの内容とその背景を説明できる。  
子どもの理解を深めるための基礎的な態度について説明できる。  
発達の連続性を理解し、就学への支援のあり方を考えることができる。  
予防的介入のあり方について考えることができる。

《授業時間外学習》

予習として次回授業の該当ページを精読し、自らの興味関心や疑問点などをまとめた「予習ノート」を作成する(30分)。授業後は予習ノートと授業内容を確認し、ノートを整理する(30分)。本授業は時間外学習として合計15時間の予習・復習が必要です。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を40%、授業内のワークの内容を40%、リアクションペーパーの記載内容20%で評価する。  
総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子ども理解の意義	子ども理解の重要性と心理学的知識の活用について理解する。＜授業外＞テキストの序章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
2	子どもの発達を概観する	主として乳児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第1章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
3	子どもの発達を概観する	主として幼児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第2章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
4	子どもの発達を概観する	主として児童期と青年期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第3～5章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
5	特別な支援を必要とする子どもの理解	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。＜授業外＞テキストの第6章第1～2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
6	特別な支援を必要とする子どもの理解	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。＜授業外＞テキストの第6章第3～5節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
7	子どもの精神疾患	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。＜授業外＞テキストの第7章第1節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
8	子どもの精神疾患	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。＜授業外＞テキストの第7章第2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
9	アセスメント	子どもを理解しアセスメントする方法と目的について学ぶ。＜授業外＞テキストの第12章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
10	アセスメント	検査によるアセスメントの方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
11	アセスメント	観察の方法と、それぞれの長所・短所を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
12	記録と省察	アセスメントにおける記録の意義と情報の共有方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
13	就学への支援	発達の連続性を理解し、就学に向けた支援のあり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
14	予防的心理教育	一次的援助の理論について理解する。＜授業外＞テキストの第13章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
15	予防的心理教育	一次的援助の方法について考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。



《専門科目》

科目名	保育の計画と評価				
担当者氏名	大久保 淳子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本授業は、保育者として、保育の質の向上を踏まえた保育の計画及び評価を踏まえて、全体的な計画・指導計画の作成をするために、その意義と方法について知り、そして、子ども理解に基づく保育の過程と、その全体構造を理解するための授業です。

《テキスト》

保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省、幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 2021/3/17 文部科学省

《参考図書》

幼児理解に基づいた評価（平成31年3月）、文部科学省

《授業の到達目標》

1. 保育の質の向上を踏まえた保育の計画及び評価について説明することができる。
2. 全体的な計画と指導計画の作成、その意義と方法について具体的に述べることができる。
3. 子どもの理解に基づく保育の過程と、その全体構造を説明することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 指導案の作成、検討
- ・ 指導案作成に関する保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開の関連箇所を読む。

《成績評価の方法》

- ・ 指導案の作成（60%）、発表（30%）、授業参加度（10%）
- 総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

指導案は添削などのフィードバックをします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	カリキュラムの基礎理論（1）保育所	保育所保育士指針の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
2	カリキュラムの基礎理論（2）幼稚園	幼稚園教育要領の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景について 事前学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
3	保育における計画と評価の意義	子どもの理解に基づく保育の過程の循環による保育の質の向上について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
4	保育所保育指針の内容及び社会的背景	保育所保育指針の内容及び社会的背景について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
5	幼稚園教育要領の内容及び社会的背景	幼稚園教育要領の内容及び社会的背景について 事前学習：幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
6	認定こども園教育・保育要領について	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景について 事前学習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の関連箇所を読む。
7	保育の目標と計画の基本的な考え方	保育の目標と計画の基本的な考え方について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
8	全体的な計画と指導計画の関係性	全体的な計画と指導計画の作成・検討について 事前学習：実習の振り返り
9	指導計画(長期的・短期的)の作成	指導計画(長期的・短期的)の作成・検討について 事前学習：幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開の関連箇所を読む。
10	指導計画作成上の留意事項	指導案の作成・検討について 事前学習：指導案の作成(絵本・製作・その他)
11	計画に基づく保育の柔軟な展開	保育の質向上に向けた改善の取組について 事前学習：指導案の検討
12	保育の記録及び省察	保育の記録及び省察について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
13	保育士及び保育所の自己評価と保育の質	保育士及び保育所の自己評価と保育の質向上に向けた改善の取組について 事前学習：保育所保育指針解説の関連箇所を読む。
14	保育所児童保育要録・幼稚園指導要録	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録・幼稚園指導要録について 事前学習：保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。
15	まとめ 保育の計画と評価	保育の計画と評価の概要 事前学習：保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説の関連箇所を読む。

《専門科目》

科目名	音楽表現領域指導法				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

子どもの発達を意識した音楽活動について学ぶ。  
様々な楽器について知る。  
自由な表現を用いて、オリジナルの独奏曲、合奏曲を作曲し発表する。  
学んだ音楽活動を参考に、模擬授業を実践する。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著） 他  
保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体  
福村出版株式会社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。  
音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を身につける。  
子どもの発達に応じた音楽表現活動の実践方法を身につける。

《授業時間外学習》

提示された課題への取り組み  
発表に向けた自己学習  
模擬授業に必要な備品の準備  
(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《成績評価の方法》

個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題、個人やグループによる発表に対して、フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	音を聴くことによる受容と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について 〔時間外学習〕日常生活で耳にする音についての調査
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音をモバイル端末を用いて収集 〔時間外学習〕収集したデータの選別
3	収集した「音」についての発表	収集した「音」について発表用資料を作成 〔時間外学習〕発表にむけての準備
4	収集した「音」についてのまとめ	収集した「音」について、作成した発表用資料を用いた発表 〔時間外学習〕発表の振り返り
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について 〔時間外学習〕呼吸器官を意識した呼吸法の実践
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長 〔時間外学習〕学んだ分類方法を用いた楽器の分類
7	楽譜からの情報による印象の変化	「音楽の3要素」(メロディー、リズム、ハーモニー)が与える様々な印象 〔時間外学習〕提出した課題への取り組み
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備
9	作曲した独奏曲の発表(前半)	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り、発表にむけての準備
10	作曲した独奏曲の発表(後半)	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲(紙を用いて音を出す)の楽譜をグループで作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 〔時間外学習〕発表の振り返り
13	音楽活動の計画	模擬保育(音楽活動)の計画と指導案作成 〔時間外学習〕指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践(1~3班の発表)と講評 〔時間外学習〕模擬保育で使用する教材等の準備、実践した模擬保育の振り返り
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践(4~6班の発表)と講評 〔時間外学習〕実践した模擬保育の振り返り

《専門科目》

科目名	身体表現領域指導法				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本科目では、全15回の授業を通して「こころ」と「からだ」を用いた表現について学ぶ。それは、自由な発想やイメージによる自己表現を体験する授業であり、あらゆる自己表現を互いに認め合う態度を養う。保育者が子どもの表現を引き出すためには、保育者自身が豊かな感性を磨いていく必要がある。そのために、自由に身体を動かす楽しさを学び、他者の表現を尊重しながらグループで協力して身体表現を創作する。

《授業の到達目標》

保育現場で実践できる身体表現技能を身につけるため、次の目標達成を目指す。自らの体験を通して身体表現活動の楽しさを味わい、身体表現技能を修得できる。保育活動の視点から、身体表現活動への展開方法について学び、保育現場で実用できる。幼児の感性・創造性を尊重し、共感できる態度を身につけ、幼児の表現を評価できる。

《成績評価の方法》

授業内で実施する各種実技試験60%、毎回の学習記録40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

Microsoft社製のTEAMSを用いて、履修者専用のチームを作成し、必要に応じて資料を履修者専用チームにて提示する。

《参考図書》

井上勝子他『新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び』ぎょうせい  
魚住美智子、大方美香『幼児の身体表現 保育・教育シリーズ』久美

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、身体表現について、TEAMSに提示する実技課題動画を参考にしながら予習・復習しておくこと。また、各学習内容に関する事柄について、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学習を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出する授業記録用紙に対してコメントを記載し、次回の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期における身体表現活動の意義	子どもの感性と身体表現、保育者の指導・援助に関する理解〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
2	「からだ」のコミュニケーション	身体に着目した他者との関わり、立腰（実技試験）〔時間外学習〕本次で取り組んだ実技試験の内容についてスムーズにできるように反復すること（予習・復習1時間）
3	新聞紙を用いた表現活動（練習）	走る、模倣、破く、ゲームなど新聞紙を用いた活動の指導・留意点〔時間外学習〕参考図書 pp77～85の内容について予習・復習すること（合計1時間）
4	新聞紙を用いた表現活動（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
5	パラバルーン（練習）	基本的なパラバルーンの扱い方、基本的な技の練習〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
6	パラバルーン（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
7	スポーツの表現（練習）	スポーツを題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
8	スポーツの表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
9	からだで窓をつくらう（練習）	個の表現から群の表現へと発展する身体の使い方〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	からだで窓をつくらう（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
11	リズムダンスの創作（基礎）	動きに関する基礎的な創作方法〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
12	「夏」の表現（練習）	夏を題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
13	「夏」の表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
14	リズムダンスの創作（練習）	オリジナルの動きを取り入れたリズムダンスの創作〔時間外学習〕実技試験に備えて、正確な動作、再現性を高める練習をすること〔予習・復習1時間〕
15	リズムダンスの創作（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験、本授業の総括〔時間外学習〕実技試験の内容を予習し、自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）

《専門科目》

科目名	人間関係領域指導法				
担当者氏名	岡澤 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

乳幼児が社会の中で主体として生きていく上で、基本となる自立、そして人と関わる意欲と人間関係を調整する力、よこびをもって集団生活を進める力を育む保育について、保育事例の考察や指導実践を通して学ぶ。

《テキスト》

保育内容 人間関係 あなたならどうしますか？ 第2版 編著 酒井幸子 萌文書林

《参考図書》

幼稚園教育要領（文部科学省）平成29年告示  
 保育所保育指針（厚生労働省）平成29年告示  
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省）平成29年告示

《授業の到達目標》

（1）領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。（2）幼児の心情、認識、思考及び動きなどを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。（3）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。

《授業時間外学習》

・教科書及び授業内で配布された資料等について、予習復習を行う。

《成績評価の方法》

授業内で記録する確認レポートおよび提出物（40%）、最終試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業内で実施する学習内容の理解を確認するレポートおよび提出物については、翌週の授業内にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育の基本と領域「人間関係」	基本理念 子どもとかかわりながら「育てる人」へと転換するために、幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領の領域「人間関係」に求められることを探る。
2	好きな人との信頼関係を基盤に育つ	子どもの世界を感じよう (準備学習) 新生児・乳幼児の発達について復習する。
3	保育者としての感覚を磨こう	子どもはあなたを見つめている。失敗は学びの宝庫 (準備学習) 配布プリントを予習する。
4	乳幼児期の人間関係	乳幼児期の人間関係と生涯を通じた「人間関係」の原理とその発達 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
5	保育者やいろいろな友達のいる環境	仲間入りを巡る人とかかわり (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
6	人との信頼関係	安心して園生活を送れるようにするための保育者とかかわり (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
7	けんかやいざこざから生まれるもの	それでも絵本が欲しかった。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
8	片付けと人間関係	片付けを巡る子どもと保育者の関係。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
9	遊びと人とのつながり	物を介した人とのつながり。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
10	道徳性・規範意識の芽生え	幼児期における道徳性・規範意識の芽生え。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
11	気になる子どもと他児とのつながり	一人一人の乳幼児の本当の気持ちがわかる先生に。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
12	保護者支援と保育者の役割	テキストの事例を通して意見交換をする。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
13	協同的な活動における体験・学びの芽生え	テキストの事例を通して考える。 (準備学習) 課題について自分の考えをまとめる。
14	指導案の作成と評価	ルールのある遊びについての教材研究・指導案の作成を行う。 (準備学習) ルールのある遊びについて指導案を作成する。
15	園内の人間関係と保育者の自分磨き	ルールのある遊びについての指導案の実践と評価を行う。 (準備学習) 作成した指導案の評価とシミュレーションを考える。

《専門科目》

科目名	特別支援保育				
担当者氏名	古橋 真紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

特別支援保育での学びを基礎に、子どもの保育上のニーズを理解し効果的に支援していくために必要な具体的な方法を、子どもの実態把握に基づく支援計画や指導計画の立案を通し、保育の展開を想定して考える力を培う。更に、障害及び障害以外の特別な支援を要する子ども達を含む学級経営について事例を通して考えていく。また、保護者や関係機関、小学校とどう連携・協働して切れ目ない支援を行っていくかについても学ぶ。

《授業の到達目標》

子どもの多様なニーズを把握することができる。  
事例から支援計画・保育計画を立案することができる。  
保育計画から保育展開を想定することができる。  
保護者への支援方法を論じることができる。  
他機関との連携について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、課題等提出物20%、授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。  
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「子どもの育ち合いを支えるインクルーシブ保育」大学図書出版,2017

《参考図書》

「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館  
「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館  
「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

教科書や授業中配布するプリントを用いて、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。また、障害がテーマとなっているTV番組や映画等の映像、絵本や漫画、書籍について自ら探して参照し、特別な支援のある幼児・児童・生徒の実態や困難さ等の理解を深めましょう。

《課題に対するフィードバック等》

提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	特別支援保育Iを振り返り、本講義の概要を理解する。 予習：教科書 p3 復習：授業配布プリント
2	障害のある子どもの保育	障害のある子どもの保育について学ぶ。 予習：教科書 p 10～19 復習：授業配布プリント
3	多様な子どもの保育	自分の障害観や保育観について自覚した上で、障害のある子どもの保育形態について学ぶ。 予習：教科書 p 10～19 復習：授業配布プリント
4	障害のある子どもの実態把握に基づく保育	自閉症スペクトラムの幼児の困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 25～31 復習：授業配布プリント
5	障害のある子どもの実態把握に基づく保育	発達障害のある幼児の困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 20～24 復習：授業配布プリント
6	障害のある子どもの実態把握に基づく保育	身体障害のある幼児の困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 39～49 復習：授業配布プリント
7	多文化の子どもの保育	外国にルーツをもつ子どもや養育環境に課題のある子どもについて理解し、保育における配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 56～62 復習：授業配布プリント
8	特別な支援が必要な子どもの家庭支援	特別な支援が必要な子どもの保護者の抱える困難さの理解と必要な支援について学ぶ。 予習：教科書 p 63～69 p129～132 復習：授業配布プリント
9	障害児保育・療育に関する理論	障害のある子どもの保育・療育に関する様々な理論について学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
10	障害のある子どもを含む学級経営	障害のある子どもの生活や環境を通じた指導と障害のある子どもを含む学級経営について学ぶ。 予習：教科書 p 96～100 復習：授業配布プリント
11	個別計画の立案	個別計画について学び、事例を基にした個別の保育計画を立案する。 予習：教科書 p 77～87 復習：授業配布プリント
12	指導計画立案と教材作成	実態把握に基づく指導計画を立案し、必要な環境や教材の研究を行う。 予習：教科書 p 77～87 復習：授業配布プリント
13	指導計画に基づく教材の発表	指導計画に基づく保育を展開することを想定して、教材を作成し発表する。 予習：教科書 p 77～87 復習：授業配布プリント
14	他機関との連携	障害のある子どもを支援する中で連携していく機関や専門職について理解し、連携の仕方について学ぶ。 予習：教科書 p 70～87 p133～146 復習：授業配布プリント
15	特別支援保育の課題と展望	特別支援教育に関する知識の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用				
担当者氏名	山田 真澄、根岸 恭子、平峯 章生、渡邊 公実子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」などの歌を通して子供たちの1日にリズムを与え、また子供たちの豊かな感性を育むための技量を身につけるために、人前での童謡の弾き歌いやピアノ曲演奏技術を学習する。本授業では、1年次に習得した演奏技術を保育の場で実践できるようにするとともに、実習の際の園の課題曲等への対応を行う。

《授業の到達目標》

- ・保育の場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を習得し、童謡の弾き歌いを5曲以上演奏できる。
- ・参考図書 から のピアノ曲が1曲演奏できる。
- ・簡単な初見視奏ができる。
- ・指定された音階と主要三和音を弾くことができる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌いもしくは初見視奏45%、音階と主要三和音5%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

- ・奥村恵美子他「子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1・2」音楽之友社 もしくは
- ・越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- (1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。  
全訳バイエル 全音楽譜出版社  
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社  
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社
- (2) 幼稚園、保育所等の実習で演奏する曲

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次の授業に備える（本授業では15時間の時間外学習が必要です）。

《課題に対するフィードバック等》

童謡の弾き歌い発表および14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定
2	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
3	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
4	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
5	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
6	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
7	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
8	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
9	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
10	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
11	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
12	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
13	童謡伴奏もしくは視奏またはピアノ曲の演奏	1・2班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏 3・4班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）および指定された音階と主要三和音の演奏
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌い発表と14週目に行ったピアノ実技演奏の振り返り 最終評価の確認

《専門科目》

科目名	食育論				
担当者氏名	大野 智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

食育基本法の概要・食育の基本を理解し、食に関する感謝と子どもの食育に関する保護者との関わりについて理解し、伝統的な行事や作法と結びついた食文化や地域の特色ある食文化などを理解する。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」についての理解を深め、日本食文化の素晴らしさに気づき、未来に向けて継承していこうという気持ちを育めるよう授業をすすめる。世界の食文化についても学ぶ。

《授業の到達目標》

食に関する感謝と自然への感謝の気持ちが得られる。  
 子どもの食育に関する保護者との関わりについて理解する。  
 和食の基本的な形や四季折々の食材や調理法を理解する。  
 地域による伝統料理を知り、食育活動に生かせる。  
 各国の食事のマナーや作法を知り、グローバルな観点で食についての知識を得る。  
 全国の郷土料理についても理解する。

《成績評価の方法》

評価は、  
 授業態度（40％）  
 ノート、レポート、課題等（30％）  
 確認試験（30％）  
 総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

使用しない  
 プリントを配布する

《参考図書》

禅が教えてくれる美しい人をつくる「所作」の基本  
 枅野俊明（株）幻冬舎  
 テーブルマナーの絵本 高野紀子作 あすなる書房  
 産学協働による認定食育士制度の構築及び実践 テキスト  
 「食育教養ラーニング」 国際学院埼玉短期大学

《授業時間外学習》

専用ノートを作成し、各回ごとのテーマに基づいた内容を、見やすく、分かりやすくまとめる。  
 本授業では、30時間の時間外学修が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

講義内容がより理解できるよう、日頃から食に対して興味関心を持ち、授業に臨んでください。毎授業回の最後に質問を受け、回答する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	和食の文化とは、和食における「もてなし」の心	和食の基本的な形を理解する。ユネスコ無形文化遺産に登録された推進理由を知り、和食への興味関心が持てる。料理の盛り付け、季節に合わせた器、もてなしの心を知る。
2	食育の基本と内容	食育は「生きるうえでの基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきもの」であり、食を営む力の育成に向けた基礎を理解する。
3	日本の食文化の充実 和食の三大基本マナー	大饗料理、精進料理、本膳料理、懐石料理の料理形式や特徴を知り、日本食文化の発展と自由な料理の時代への変化を知り、和食の三大基本マナーについて学ぶ。
4	優れた栄養バランス、幼児期の食事気で気をつける事	バランスの良い食事（一汁三菜）とはどんな組み合わせなのかを理解し、健康的な食生活が送れるよう知識を深める。大人の関わり方で、幼児は楽しく食事ができる事を知る
5	幼児の成長と食事の工夫について	食べる機能の発育発達により、食形態を変える必要がある。成長に合った食べ物や食べ方や、保育者・保護者としての関わり方を理解する。
6	子どもの食を広げる料理や食材の工夫	食材の特徴を知り、幼児が食べにくい理由と食べやすくするための調理のコツや工夫を理解し、食育活動に活かせる。
7	季節の行事と結びついた食・地産地消の意義	季節の行事やならわしと結びついた食べ物を知り、使用する食材の効能や先人たちの思いを理解する。また、地産地消の意義を理解する。
8	旬の食べ物と効能	食べ物には、一番おいしくて栄養たっぷりの時期を「旬」という。収穫される時期や季節を知り、食材の「旬」を理解する。
9	鮮度を保つ方法や保存の仕方	食べ物を新鮮なまま、使うための工夫や保存の方法を理解する。また、食材をより美味しく食べるために乾燥したり、発酵させたりする方法を知り、食育活動にも生かせる。
10	5つの基本味、五感	人間の味の味覚は、「甘い」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」の5つの基本味を知る。五感（視覚、嗅覚、味覚、触覚、聴覚）についても知る。
11	言葉の意味	「いただきます」「ごちそうさま」の意味や、身のまわりの「もったいない」を理解し、物の価値を生かす工夫を考え、自然の恵みや感謝、思いやりの気持ちを持つ。
12	所作を整える	日本の美しい心をもっと深く知り、所作を整え、食事の仕方、食事のおもてなしなどを理解し身に付ける。
13	日本の郷土料理について	日本には、その土地の気候や収穫される食材を生かして、様々な郷土料理がある。郷土料理が受け継がれる背景も知る。
14	世界の郷土料理について	前回と同様、世界各国にもその土地の気候や収穫される食材を生かした様々な郷土料理がある。その特徴を知る。
15	食育活動のいろいろ	食べ物の組み合わせのウソ・ホント？ 食育なぞなぞなどを通して、子どもたちへの食育活動に繋げることができる。

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	桐原 由美、倉澤 俊夫				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

授業の概要

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践について学ぶ。また、幼稚園教育実習のために必要な記録力、考察力を養うと同時に社会性を身につけ、本学の「育てたい保育者像」を目標に本科目を学ぶ。

《授業の到達目標》

教育実習（責任実習）に必要な知識、態度、技術を身につけることができる。

教育実習（責任実習）に参加する自己課題を明確にし、表現することができる。

実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育者としての課題を理解し、今後の実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

小櫃智子「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」わかば社 2017  
無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017

《参考図書》

植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006  
その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習の手引きを常に熟読し活用すること 実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。実習用エプロン、名札の作成及び実習で必要とする文書の作成等 本授業では29時間の時間外学修が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	責任実習の意義	責任実習の意義と実施要件
2	実習生調書及びオリエンテーション	1年次の実習の振り返り・実習生調書の作成
3	部分実習	部分実習指導案の書き方
4	責任実習	責任実習指導案の計画と書き方
5	実習の記録	記録方法とエピソード記述
6	実習前試験	実習前試験・オリエンテーションに向けて
7	実習直前指導	実習中のQ&A 実習後の手続き
8	実習後事後指導	教育実習振り返り（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		